

コロナ禍に思う

内海由美子

2020年は、全く想像したことがない事態に全世界が陥りました。新型コロナウイルスが大流行したのです。年明けに初めて耳にした「新型コロナウイルス感染症」によって、日本にも緊急事態宣言が出され、すべて自粛という状況となりました。

3月から6月まで、教会の礼拝も中止となるという、今まで考えたこともない非常事態となったのです。

新型コロナウイルスは、飛沫感染するということで、まさしく自由に「歌う」ということができない状況が現在も続いています。礼拝休止中、私たちの2枚の聖歌CDを様々な場面で用いてくださったというお話を伺い、2019年に2枚目の「時を超え」を制作して本当によかったと思いました。制作したときは、こんな風に用いられるなんて夢にも思っていまませんでした。

今まで当たり前のように、集い、会話し、そして食事を共にしていたことが、どれほど幸せで感謝なことだったかを実感します。まだまだ先の見えない不安がありますが、聖歌を歌うとき、どれほど力づけられ、希望を感じることができるか…。このような試練のときだからこそ、聖歌のもつ力は本当に素晴らしいと感じます。

聖歌476番「暗闇行くときには」が好きだと仰る方が多いように思います。私もこの「希望」の聖歌が大好きです。この聖歌を口ずさむだけで、主が共にいて、支えてくださっていると感じます。

私に与えられた賜物が「歌う」ことなら、この賜物を「主を賛美する」ことに用いたい、そして「主の愛と希望」を伝えたいと思っています。祈りと共に。

(2020年11月)